

へども、頗質實にして、厚きに近し、嘉摩穂波皆好郡とすべし、

〔日本書紀安八〕二年五月甲寅、置筑紫穂波屯倉、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事略○中

筑前國略○中 穂波郡四日、請文十三日、略○中

寛正二年六月廿九日

備中守 奉 秀明略○下

夜須郡

〔筑前國續風土記九〕夜須郡

日本紀を考ふるに、仲哀天皇九年春三月壬申朔辛卯に、神功皇后層増岐野にいたり、則兵を擧て羽白熊鷺をうつてこれをほろぼし給ひ、左右に謂て曰、熊鷺を取得て、我心則安しとのたまふ、故に其所を號て安と云よし、或るせり、此郡の號爰におこれり、後に二字に改て夜須と書るならん、此郡は、南は筑後に境ひ、東南は下座に連なり、東北は嘉摩穂波に、山を隔て、つゞき、西北は御笠に隣れり、境内に山川有て、其利すくなからず、土地肥沃にして、米穀多し、順和名抄に、夜須郡は東西とあり、今も栗田より東を東郷と云、西を西郷と稱す、

〔日本書紀神九〕九年哀○仲 三月戊子、皇后功○神 欲擊熊鷺、而自樞日宮遷于松峽宮、辛卯、至層増岐

野、即擧兵擊羽白熊鷺、而滅之、謂左右曰、取得熊鷺、我心則安、故號其處曰安也、

下座郡

〔筑前國續風土記十〕下座郡

此郡筑前の南の方端なり、郡の形東西廣く、南北は狹し、南の方、及未申は筑後に隣て、千年川を界とす、寅卯辰巳は上座郡に境ひ、北は夜須郡に連れり、郡中に河流れて水利多く、土肥て播植しける、深山なくして、美材ゆたかならずといへども、薪炭ともしからず、民俗朴直にして、謙遜なり、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事略○中

筑前國略○中 下座郡六日、請文十七日、略○中